

市長室から

令和5年5月9日 記

北海道の一番爽やかな、春から初夏を迎える季節となっていますが、市民の皆さんには、いかがお過ごしでしょうか。

観光に来られている方も多く見かけるようになり、心弾む季節であります。

この春には、統一地方選挙で、市民の多くの皆さんにご支持をいただき、誠にありがとうございました。

私としては、市民の皆さんにとって分かりやすい、保健・医療・福祉そして教育などをテーマに、こんなことが出来るなどということも考えましたが、三笠の現状を考えると、今、未来をテーマに語らなければ、マチが無くなってしまうという危機感からどんな福祉施策、教育施策をするにも、それを維持していくための資金が必要であり、そのためには、経済の活性と産業の創生が必要なのだと訴えて参りました。

私の訴え方が十分なものであったかどうか、自分にはわかりませんが、責任ある立場にある者として、辛くても言うべきときと決断して訴えてきたつもりです。

選挙戦でご指摘を受けた中に、人口問題がありましたが、高齢化が著しく進んでいる当市では、自然減が大半であり、この対策を行うことは難しいのですが、人口対策は平成23年から取り組んできており、他市町村に比し大きく効果を挙げます。

既に、当市に制度を利用して転入してこられている方々は、1,023名にも上っており、そのうち700名を超える方々が定着し、年少人口の比率も上がりました。

人口対策としては、出来る限りのものを実施してきており、大きな成果を挙げていると考えています。

次に、特産品が無いと言われていますが、現在三笠市には、115品目の特産品があり、特にふるさと納税制度が出来てから大きく増加しています。

市としては、今後、特産品を大きく展示販売する場所も考えてお

り、より積極的に経済効果を引き出すとともに、市民のみなさんにもご利用いただけるよう、取り組んでいく所存です。

次に市内で訪問看護が行われていないとの指摘がありました。三笠市では既に平成6年から北海道総合在宅ケア事業団により訪問看護事業が行われており、また、平成27年からは、市立病院においても実施し、77名の方が利用されているのに加え、医師が患者宅に出向いて診察する訪問医療も行われ、23名の方が利用されています。

最後に、観光が無いとのことですが、三笠市には、楽しく学びながら知識を蓄えていただく観光に取り組んでおり「学ぶ」をテーマとした観光のマチを目指しています。

ジオパーク、博物館・鉄道村、道の駅、太古の湯、三笠遊園などがあり、多くの方々に楽しんでいただいています。

特にジオパークに関しては、土地柄、風土、産業、歴史、文化、など三笠の全て含まれ、総合的にこれらを活かす観光を行うとともに三笠の歴史は、石炭というエネルギー資源の発見によりできたマチであり、いずれは、エネルギー資源を活用した市民がこぞって動く体験の出来る場所を創りたいとも思っています。

市民の皆さんからいただいたご指摘を真摯に受け止め、今後も住みよく、自慢できるマチづくりにチャレンジして参りますので、引き続き、市政に関心をお持ちいただき、お気づきの点などありましたら、ご指摘くださいますようお願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。

よろしく願いいたします。